「森銑三刈谷の会」だより　No. 18

発行　2023 年 3 月 18 日（月刊・メールでの投稿歓迎）
例会　第 3 土曜日 14:00-16:00 市中央図書館　参加自由
バックナンバー 刈谷市中央図書館＞森銑三刈谷の会
共同代表 神谷磨利子・鈴木　哲 tetsu_s@katch.

図　森銑三、満 28 歳の新しい職場―市立名古屋図書館の児童室
開館記念絵葉書　撮影 1923.9.28　名古屋市図書館デジタルアーカイブ　なごやコレクションより

表「お伽ばなしの会」実施状況 1924 – 25 年

年	月	日	回	主な口演童話担当職員		
				森銑三	森川紫気	阪谷俊作
1924	1月	13日	①	○	○	○
		20日	②	○		○
		27日	③	○／○	○／○	
	2月	3日	④	○	○	
		10日	⑤	○	○	
		17日	⑥	○	○	○
		25日	⑦	○／○	○	
	3月	2日	⑧	○		○（朗読）
	4月	6日	⑨	○		○（朗読）
	5月	4日	⑩	○	○	
	6月	8日	⑪	○		
		15日	⑫	○		
	11月	23日	⑬	○	○	
1925	3月			森銑三退職		
			⑭は26年5月実施			

参考「市立名古屋図書館々報」第 33 号（1926 年 9 月号）

銑三演目のタイトル※については、高梨章「森銑三の名古屋図書館「お伽ばなしの会」『日本古書通信』2015 年 4 月号 pp. 22-24 を参照した。

市立名古屋図書館時代　その２　　参加 14 人

名古屋図書館児童室の森銑三　　神谷磨利子

市立名古屋図書館は 1923 年 10 月 1 日開館である。銑三は開館前の同年 4 月から 25 年 3 月までの 2 年間在職していた。館長の阪谷俊作（1892-1977）と美添（よしぞえ）鉉二（1883-1922）が中心になって、児童に対する図書館奉仕活動が盛んに行われた。美添は巌谷小波の弟子で小波の「木曜会」の会員であり、すでに東京のお伽話や口演童話の世界で「紫気」の号で活躍していた。銑三は 1916 年 8 月 16 日に『新愛知』9000 号記念の子供デーで小波や久留島武彦のお伽講演（新聞のママ）を聞いている。同じ下宿の紫気とは気が合ったことであろう。美添は後に森川に改姓している。開館 3 か月目に職員による「お伽ばなしの会」が開催された。開館後進んで児童室の係となった銑三は、その中心となって活躍していたと思われる。表に示したように、1924 年一年間で 13 回（一日に 2 回を含めると 15 回）のお話に全参加しているのは銑三だけである。1 月と 2 月は毎週日曜日開催という熱の入れようである。刈谷から弟の森三郎も兄の下宿に泊まって、聞きに行っている。

銑三の演目はタイトル※から判断すると次の三つに分類される。一つはグリム童話（「手なし娘」「鼠色の男」「三匹の小豚」「シンデレラ」「二人猟師」）、二つ目は小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の再話（「むじな」「物いふ布団」「鐘のたましひ」「果心居士」）、三つ目は中国の話（「板橋屋の三娘子」「灯篭祭」「花屋の娘」）である。他に「雪ざんげ」「仁王様を盗み出す話」がある。

銑三は亀城尋常高等小学校の代用教員時代にも子どもたちにお話を聞かせていたが、年度途中で退職した後に「お弁当の時や雨降りの体操の時間に話すことにしていたグリムやアンデルセンのお伽話も、まだいくらもしないのに―」と書いている（「別れて来たこどもらへ」『著作集続編』第 15 巻 p. 168）。大道社で『帝國民』編集者時代には、早稲田大学高等師範部英語科の学生萩原恭平と共にハーンの作品を翻訳している。高崎南小学校の代用教員時代の雑誌『小さな星』に連載の「二人猟師」も調べてみると、グリムの「二人兄弟」から再話したものであることが分かった。名古屋図書館の「お伽ばなしの会」で語った話はいずれも銑三が以前から温めて語ってきた題材であったと言えよう。

名古屋を中心に東海地域では口演童話が盛んであったが、小学生の頃、出村孝雄（1908-2001）の口演童話を聞いた話（山田宇多子）、ライオン歯磨の口腔保健活動で指導にあたり、口演童話の実演をする出村と一緒に東海北陸の学校を回った話（正木敦子）なども紹介された。

当日の会の終わりには、銑三の『瑠璃の壺』（1982 年、三樹書房）所収「青い小鳥」中の「花屋の娘」を朗読してもらった。銑三の童話をもっと読みたいという声や、子どもへの優しい眼差しから専門の学問に移って行く過程の話が楽しみだなどの声も寄せられた。

名古屋図書館では 1924 年 10 月 1 日に巌谷小波を招いて一周年記念の「お伽大会」を盛大に行ったが、「お伽ばなしの会」は同年 7 月以降間隔が空いている。同館での銑三の担当に変化があったと想像できないだろうか。

今後予定
2023/3/18（土）前川芳久、村上文庫の随筆書は楽しい
2023/4/15（土）神谷磨利子　市立名古屋図書館から文部省図書館講習所へ